

管内の百名山

みようこうさん 「妙高山」



妙高山は、新潟県南西部、長野県境にある妙高火山群の主峰で、妙高戸隠連山国立公園に属し、富士火山帯の北端にあたる二重式火山で、円頂の中央火口丘を形成しており、標高は2,454 ㍍となっています。

山名は、古くは「越の中山」（こしのなかやま）と呼ばれていたものが、妙字二字令により「名香山」と当て字され、それが「みようこうざん」と読まれるようになり、「妙高山」の字が当てられたとされています。また、別名を越後富士と呼ばれています。

妙高山を囲むように2,000 ㍍級のカルデラが形成され、中央火口丘との間には狭い火口原があり、その南地獄谷、北地獄谷からは、豊富な温泉源があり、裾野の温泉郷へはここから引き湯されています。妙高高原には7つ温泉郷があり、それらは5つの泉質・3色の温泉で、全国的にも珍しく、妙高の大自然に包まれて、心身ともに癒やされる温泉地として有名です。

昭和53年には妙高山を源とする白田切川上流の国有林において、大規模な地すべり性の崩壊が発生し、それが土石流となって流れ下り、家屋全壊27戸、死者13名、重傷者1名、被害総額56億円を超える甚大な災害が発生しました。

当署では、この災害の復旧治山工事として、令和7年度の工事完成まで約55億円を投じて治山ダム等を施工しました。その後も上流部において治山ダム等を施工しています。

このように厳しい自然環境の妙高山ですが、残雪が残る5月頃には、山腹に「はね馬」の雪形が現れ、山麓から一気に雪解けが進みます。

妙高山の登山口は、燕（つばめ）温泉、新赤倉温泉口・池ノ平温泉口と笹ヶ峰口があり、多くの登山者が訪れています。

上越森林管理署では、妙高山周辺の豊かな自然を後世に伝えるため、登山者へ自然の魅力のPRやマナー向上の呼びかけなど、森林保全活動を行っています。



はね馬



春の妙高山